

平成30年度第2回 鹿児島市清掃事業審議会 会議録

日 時：平成30年12月17日（月）13：30～15：08

場 所：東別館9階 特別中会議室

【出席者：20名】

①審議会委員（10名）

三原委員、宮竹委員、新田委員、坂元委員、鶴田委員、川畑委員、久保委員、田尻委員、向段委員、井上委員（会長）

②事務局（10名）

環境局長、資源循環部長、資源政策課長、廃棄物指導課長、清掃事務所長、北部清掃工場長、南部清掃工場長、環境政策課長、資源政策課管理調整係長、同課ごみ減量推進係長

【次 第】

平成30年度第2回清掃事業審議会

- 1 開 会
- 2 環境局長あいさつ
- 3 委員紹介
- 4 会長・副会長の選出
- 5 議 事
 - (1) 報告事項
 - ① 「家庭ごみマイナス100g」のゴール設定について
 - ② 鹿児島市災害廃棄物処理計画（素案）について
 - (2) その他
- 6 閉 会

【議事録（「議事」以降）】

発言者	発 言 内 容
会長	【報告事項①『家庭ごみマイナス100g』のゴール設定について】 それでは議事に入る。議事はお手元の配付資料に基づいて進めさせていただく。報告事項①『家庭ごみマイナス100g』のゴール設定について事務局から説明をお願いします。
事務局	（資料に基づき説明）約8分
会長	ただ今事務局から説明がなされたが、この説明について、何か質問等があれば、出していただきたい。
委員	鹿児島市は資源ごみ対策として平成30年1月から金属類の分別収集

発言者	発言内容
事務局	<p>を開始し、その始めに住民説明会を747回実施したことにより家庭ごみ量が減少していると思われる。平成30年からの取り組みの中で、草木類資源化モデル事業で、剪定枝粉砕機10台の貸し出しを6月から実施して約6ヶ月たつが、貸出状況はどのようになっているか。また、モデル地区を定め、民間の処理施設でチップ化を図ろうとしているが、その状況は。全市で実施した場合の収集体制や発生量、資源化ルートの確立など研究を行うとしているが、研究の時期と剪定枝等を分別収集する場合の毎週1回くらいの設定を行うのか。平成29年度の家庭ごみは18万8千トンあり、その2割が廃材や剪定枝等で3万7千トンくらいあると思われる。その中でチップ材として活用できるものが1割と想定すると3700トンくらいになる。樹木へチップ材を入れると夏季は水不足により枯れる植栽対策や、冬季は保温効果があり、また古くなると肥料にもなり、景観にもよいと思う。北部清掃工場へ大型の粉砕機を導入してもらいたい。チップ材の活用対策として、健康の森公園の責任者と話をしたら、園内の樹木へ2～3センチのウロを入れているということで、2トントラックを持っていて、いつでも取りに来たいということだった。東京都の公園を見学に行ったら、そのようなチップ材が入れてあり、景観もよかったという話を聞いた。市の公園緑化課へ電話で確認をしたら、市道や公園に植栽されている樹木は、クスノキを含め2万本あると言われた。そのほかにも1万5千本の植物を植えているということだった。この中にチップ材を年間計画で実施することも考えられる。この場合は、公園管理をしている業者に、チップ材運搬分の委託料を上乗せしないといけないということだが、そのことも検討したいということだった。このようなチップ材を活用できるように市として検討していければ家庭ごみの減少につながると思うがいかがか。</p> <p>草木類の資源化推進事業だが、本年、吉野地区と星ヶ峯地区で8月と12月に、燃やせるごみと分けて、草木類を集めるということで、分別収集をした。結果として、12月はまだ集計が上がっていないが、8月の分で、2地区合計で約15トンの草木類が集まった。それを剪定枝の粉砕を行う業者に依頼して、横井埋立処分場のI工区、すでに埋立が終わって緑地になっているところに、草が生えにくいようにということで敷き詰めている状況である。</p> <p>剪定枝粉砕機の貸し出しについては、10台購入して、11月末現在で41件貸し出しがある。年末も押し迫ってきており、最近また貸出が増えてきている。</p> <p>全市的に実施した場合、鹿児島市では4800トンくらいになるのではないかと思っている。そのうちチップとして活用できる枝などは少ない状況で、市民の方が出すのは除草した草などが多く入っているようだ。</p>

発言者	発言内容
委員	<p>北部清掃工場に粉碎機をとということだが、市としては考えておらず、民間の力を生かしてチップに粉碎いただいているという形である。今後については、研究していきたい。</p> <p>モデル事業については、来年度2地区ほど増やして、倍増ということで予定をしているが、予算の関係もある。増やしてやって、どういう形で資源化を図れるか考えていきたい。</p> <p>私は4月に志布志から転勤してきている。志布志は分別が大変細かく、草は草、枝は枝、と完全な分別だったが、今は燃えるごみで出ているということである。来年も燃えるごみで出して、草木は紙くずと一緒に出すということか。私はマンションだが、管理人が枝を切って草を持ってというのはやって、ごみと一緒に出すが、今は草木・紙類というふうに分けるのではなく、来年も草の中に生ごみが入って出してもよいということか。</p>
事務局	<p>草木類については、来年も全市的には基本的に燃やせるごみで出させていただく。今年度、吉野と星ヶ峯はモデルとして8月と12月に取り組んでもらった。全市的ではなく、その地区だけ声掛けをして集めた。来年度もモデル事業を増やしたいと思っているが、全市的となると4800トン、それをどこに受け入れるか、公園緑化とかいろいろなところと協議をしていこうと思っているが、受け皿づくりというのが懸案である。</p>
委員	<p>現時点では、モデルのところはやってもらう。来年度は燃えるごみで出すということですね。</p> <p>もう1点、住民への啓発ということだが、各地域で説明会をして、その地域の方がいらっしゃると思うが、アパートに住んでいる若い人もいっぱいいる。そこに向けてはどのような啓発をしているのか。</p>
事務局	<p>若い方、ごみに関心のない方への啓発をこれからどうするか大きな課題である。今まで説明会を相当やってきているが、やはり興味のある方は年配が多い。この方々とは別途、若い方向けというのは、大学生の新入生のオリエンテーションのときなどに出向いて説明をしている。今後は小学校のPTAとかと連携して、子育て世代とかへの働きかけができればと考えている。</p>
会長	<p>お二人のご質問・ご意見などうかがっているところだが、今後の課題ということでは、大変重要なご発言である。</p> <p>草木類の減量化・資源化、全市的に展開するためには、どのようなシステムを作り上げていくか研究していかないといけない。家庭から出る草</p>

発言者	発言内容
	<p>木類は、かなりの量があるので、どのようなシステムを設計するのかで混乱が起こるかどうかが決まる。どうやって最終的にそれを利用するのか、このあたりをしっかりと研究していかないといけない。最終的な利用方法のアイデアも、出ているのも踏まえて、市当局としても専門家の意見も聞きながら、システムの設計も進めながら、全市的な展開の方向の検討が必要だろう。</p> <p>今後の課題の3に該当するが、関心の低い方への意識啓発、これはずっと続いている問題である。例えば大学生については、地区の町内会の方からもごみ出しについて苦情が寄せられているところもある。若い人たちへの啓発、実際に行動に結びつくにはどうしたらいいか、これまでもだいぶ手は打っているが、大学まで出かけて学生に説明会を実施したり、大家さんにご協力いただいてごみ出しのルールを書いたチラシを用意して説明したりしているが、なかなかまだまだというところがある。特に若い人たちのごみ出しに対する行動の変化を促す、インセンティブを高めるようなアイデアをこれからも募っていかないといけない。全国で共通した課題だろう。妙案というのはなかなかないものか。確認のためにお返りする。</p>
事務局	<p>若い単身者、行政として接点がないということもあり、苦慮している。幅広くご意見等あれば教えていただきたい。これというものはなかなか、今後になっていくと思われる。</p>
委員	<p>結局知らないのだと思う。何グラム減らなかつたら有料化になるとか。50代、60代が知っていて、達成していると、あとは若い人たちの問題になると思う。その人たちが行動するところに告知していかないと。たぶん新聞も読まない、市民のひろばも読まない、市政の窓も放送されているが学生は見えない。志布志では住民票の転入をすませたら、次は資源政策課へ行ってください、これを出してくださいという説明をみんな受けた。鹿児島市と人口が違うので、それは難しいとは思いますが、転入手続きの時、もしくは大学に入るときにごみ出しかレンダーを配るとは思うが、コンビニに貼ってもらうのがいちばんいい。「何グラム減らさなければ有料化になる」とうたっている新聞も読んだ。結局、スーパーとか学生協もだが、コンビニは必ず行く。デパートに貼るよりもコンビニの方がいい。私はスマホを使わないのでわからないが、配信するものもあるが。知ってもらわないとやらない。若い人の行動を考えてもらいたい。</p>
会長	<p>コンビニというのはいいアイデア。具体的に可能なのかどうか。検討いただければ。どうだろうか。</p>

発言者	発言内容
委員	<p>公的などところから掲出をお願いされることは増えている。市町村単位が多い。話がずれるかもしれないが、ごみに対する規制が厳しくなってきた。分別、それから料金もどんどん上がっている。意識は高まってきた。市町村単位で規制が厳しい。郡部にいけばいくほど厳しい。ごみに対する意識が高くなって、どんどん少なくなっていく努力をしているところはある。冒頭いただいたお話のところでは、確かに告知する内容で、公的なものについては優先的にやらせてもらっている。</p>
会長	<p>若者の行動特性を考えると、コンビニによく行っていることは事実。スマホをよく使っていることも事実。若者に対してやるなら、若者の行動特性もふまえての対策も必要。関係者の方もいるので、どこまで可能なのか話し合いながら、少しでも手を打ちたい。この資料のグラフを見てすごいと思う。当初はこんなにできるか疑問だった。やれば効果が出るということ。住民説明会を1150回もやったということは、たいへんな努力だと思う。やればここまでいくので、さらに有効な手があるならやってみたい。それで目標の100グラム削減までもっていく。</p> <p>100グラム減らすというのは、鹿児島市が環境にやさしい都市、環境リーディング都市だというためには、市民のごみの排出というのが中核市の中でも上位にもっていきたいという思いがある。目標はあくまでも平均。ある意味では恥ずかしい思いをしていた。それをここまでやってこれたのだから、不可能な目標ではない。ただ、今までどおりのやり方では、限界も見えてくる。皆さんのいろいろなアイデアをいただきながら、少しでも環境リーディングシティにふさわしい市民意識・市民行動を育てていきたいと思うので、よろしく願いしたい。それ以外にいろいろなアイデアがあれば事務局にご意見をいただけるとありがたい。</p>
委員	<p>「さんあーる」のアプリのダウンロード数について、以前より変化が見えていれば教えていただきたい。大学生に入学式等で説明会があるとなれば、冊子もさることながらアプリを案内すれば、学生はスマホの時代なので、そういったものの利用も進めてもらえればと思った。「さんあーる」は紹介しやすい。自分も使わせてもらっている。ごみ出しの分別、どうやって出しているのかわからないというのが出てきているようだ。ご案内しやすいので、データがあれば教えていただきたい。また、広報について、「さんあーる」は推進していったほしいと思う。</p>
会長	<p>他にはなにかないか。</p>
委員	<p>大学生はもちろん大きなターゲット。大学の構内とかに宣伝というか啓発をするようなポスターとかあるのか。鹿大の農学部によく行くが、見</p>

発言者	発言内容
事務局	<p>かけないので、掲示板とかに貼ってもらえれば、わかるのではないかな。 そういうポスター等は作成しているのか。</p>
事務局	<p>チラシ等は作って説明会の際に配ったりしているが、ポスターはない。掲示の可否も含めて、大学などとも話し合っていきたい。</p>
委員	<p>チラシはどうしても捨てられる。いつも目に触れられたらいいと思う。</p>
事務局	<p>先ほど柳井田委員からありましたダウンロード数、今だいたい1万5000超くらいである。ダウンロード数は月ごとによってばらつきがある。引越しシーズンなど人が異動する時期には上がって、検索数も上がってという形で差がある。ダウンロード数が急激に減っているということはない。順調に伸びていると考えている。</p>
委員	<p>平成30年度の実践の中で、「親子で取り組むもやせごみ減量実践モニター」というのがあり、募集世帯が30世帯と限定されたが、100何世帯の応募があったということで、この事業に対して市民の方が積極的と分かった。毎年小学4年生に実施している環境の授業は、市のパンフレットで実施しているということなので、パンフレットの中に「燃やせごみ減量実践作戦」として、実践するための紙を1枚入れこめば、効果があると思う。</p>
事務局	<p>今、ご提案のあった件、今年小学4～6年生を対象にモニター募集をしたが、たいへん好評だった。小学4年生向けに社会科の副読本ということで、まち美化のこととごみ減量ということで小冊子を作って、毎年度小学生向けに配布している。それを教材として学校の先生に授業してもらっている。全小学校使っているかは把握していないが、その中に今年度から、モニターが取り組んだことの紹介記事を入れることにしている。家庭でできるごみ減量はこんなことがあるよということを紹介する形で教材に載せるような予定で作業を進めている。</p>
委員	<p>分別の冊子が12月から配布された。町内会の人たちからとても好評。皆さん待ちわびていた。ぜひ活用してください、と町内会員の皆さんに話している。そういうお声をいただいている。本当にありがとうございました。</p>
委員	<p>環境未来館で仕事をしていて。3Rなど伝えていくことなどで苦心した。小学生に3Rゲームというごみの分別ゲームを持って行って、小学5・6年生対象に出前授業している。子どもたちはすごく吸収が早い。</p>

発言者	発言内容
事務局	<p>おうちでも手伝っている子もいた。ただ、家族全員が共有しているかということになると、お母さん任せだったり、手伝う子ども任せだったりというところもあるといった印象を受けた。学校自体のごみがどのような処理のされ方になっているか疑問を感じる。分別ボックスに分けて出すように出前授業では話すが、学校のごみは事業所ごみ扱いか。</p> <p>そのとおりである。事業所ごみで出している。</p>
委員	<p>そこで子どもたちは勉強ができない。自分たちが学校の生活の中で事業所ごみとしてボンと出すから気になる。家庭のごみはきちんとするが。職場でのごみの出し方も、ひとまとめである。なんとなく分別していても、収集車がまとめて持っていく。地域を回るわけだから、家庭ごみをきちんと分けている人たちから見ると「え？」という声も聞く。そのあたりも説明が必要と思うことが多々ある。事業所関連の経営者などへ、現場の分別ということももう少し広報したらいいと思う。</p> <p>啓蒙・啓発ということで、自分のできる範囲でものづくり講座というものを行っている。つくるときに3Rとどのような関係性があるかを伝えながら活動している。大人や知っている人が発信することが大切。それを共有して、子どもから高齢者までみんな一緒にしていこうという空気づくりが大事と思っているところである。</p>
事務局	<p>今年の夏休み期間中を利用して、各小・中・高校、合わせて120校くらい、1時間ほど時間をいただいて教職員を対象に事業所ごみの出し方、家庭ごみの分別の仕方の講習を行った。いろんな先生が地方から異動して来たりしている。鹿児島市に来た時にそのあたりが分からず、また子ども達にも説明ができないということで、鹿児島市のルールの説明、事業所ごみに係るものだが、合わせて家庭ごみの仕方も今回初めて周知を行った。来年度に向けても、こういったことに取り組んでいきたい。</p>
会長	<p>若いうちからの教育、教育に携わる先生たちへの啓発、たいへん重要である。学校でやっていることと家でやっていることが違ってはまずい。</p>
委員	<p>小学校の5・6年生を対象に教育しているということだが、小学生が家に帰ってから、親と一緒にモニターをするなどしているのか。</p>
事務局	<p>副読本の教材にそのようなものはない。今年度、夏休みの自由研究のひとつとして取り組めば人も集まるのではということで仕掛けをして、親子モニターという事業をした。毎年副読本を利用してモニタ</p>

発言者	発言内容
委員	一を募集するという取組みはやっていない。
事務局	それを回収してみるということはしていないということか。
事務局	それはない。
委員	先ほどごみ出しガイドブックの話があったが、皆さん本当に喜んでいる。ありがとうございました。
委員	草木関係の分別収集で、事業所ごみでいえば、草木は有料で収集・処分となっている。一般家庭から出る草木関係を、粗大ごみのように有料化して、トラック借上げで収集して民間の処理場に処理をお願いしてはどうか。予算の都合もあると思うが、一部草木関係を有料化して、鹿児島市の処理施設ではなくて民間のリサイクル施設で処理すると、平成33年・34年くらいまでに、ある程度は効果的なごみ減量ができるのではないか。いろいろな意見が出尽くしている中で、業者的な立場からみるとそういう方法もいいのではと思う。
会長	これもひとつのアイデアということで検討させていただくことになるかと思う。
委員	ひとり当たりのごみ量の推移を見ると、平成29年9月を境にして資源物の傾きがはっきりと変わっている。2回目の町内単位での住民説明会、これがいちばん大きいと分析しているか。そうであれば、このトレンドを目標達成まで維持・継続するために、もう一度3回目の説明会を行う予定があるのか伺いたかったが、すでに答えがあったので、いろいろな形で検討しているということによいか。
事務局	ごみ減量の正確な分析は難しいが、分別説明会させてもらった。今後、同様の説明会は考えていないが、若い方を中心に、従来の説明会に来ていない人をなんとかしていけないか考えている。
委員	小・中学生、大学生に対してはスマホとか学校教材を活用するという話も出た。例えば、省エネルギーを進める過程で、この家庭ではこういうことに取り組んで電力量をどれだけ減らした、といった事例が出てくる。モニター事業のプロセスの中で事例紹介・改善策の紹介にも取り組んでいるのかもしれないが、省エネ活動のときにやったような、具体的な事例をペーパーだけではなくて、スマホ・パソコン、ネット上からも見られるような形になるといいと思う。

発言者	発言内容
会長	<p>やらなきゃいけないとわかってはいても、実際どうしたらいいのかわからないこともある。具体的な事例などを情報発信していくのも有効なやり方と感じる。気軽に各家庭でできる取組み事例が簡単に見られるようになれば、効果が見込めるかもしれない。予算の問題もあるがご検討いただきたい。他にもお気づきのことがあれば、事務局に伝えていただきたい。</p> <p>【報告事項②「鹿児島市災害廃棄物処理計画について」】</p> <p>それでは、報告事項②「鹿児島市災害廃棄物処理計画について」事務局の方から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>(資料に基づき説明) 約 15分</p>
会長	<p>ただ今事務局から説明がなされた。これについて、何かご意見・質問等ないか。</p>
委員	<p>たくさんの幅広い年代の人から意見を聞きたいということが大事。専門家だけでなく。周知方法を見たときに市のホームページとあるが、鹿児島市のホームページを開けるということになる。市民のひろばはネットにも出ているが、紙を読む場合、若い人が投かんされたものを読む暇はない。新聞も購読量が落ちている状況だ。周知という方法を考えたときに、ネット配信の新聞やコンビニとか目につくところで、詳しくは市のホームページ検索。高齢の人はネットを使わない。幅広い若い人の意見となったとき、従来の形では難しい。考えてほしい。</p>
事務局	<p>パブリックコメント手続きは、災害廃棄物処理計画だけではなく、市の総合計画など、全市的なマニュアルの元、行っている。この時期、災害廃棄物処理計画以外にも2つの案件がある。パブリックコメント手続きでいただいたご意見の数は、多いものもあれば一桁というものもある。あり方を市全体として考えなければならない。ご意見をすぐ反映というわけにもいかない。今回はこのような形だが、市全体として検討していきたい。</p>
会長	<p>この部署だけでなく、さまざまな部署でパブリックコメントとるようになっていく。市全体の課題で、行政改革などでやってもらう必要があるかもしれない。特に若い人の意見を聞こうと思えば、大学の協力を仰がないとうまくいかないだろう。少なくとも大学キャンパスの掲示板に貼</p>

発言者	発言内容
事務局	<p>ってもらおうとか。</p> <p>本日の審議会はパブリシティーの面から、記者クラブに案内して、実際取材もいただいている。いろいろな機会を捉えて広報していただけるようアプローチしていきたい。</p>
委員	<p>パブリックコメント一般論だが、民間のビジネス発想で考えると、若い人の意見を集めるのにSNSは欠かせない。仕掛けをつくるのはシステム構築費がかかるが、SNSを使ってコメントを集めてはどうか。例えば具体例を挙げると、「トリップアドバイザー」という観光旅行用SNSがあるが、コメントを投稿すると、投稿の数、それに賛同した人の数によってメダルのステータスが上がっていく。そういう動機づけがどのようにしたらできるか。工夫をしていけばコメントが増やせるのではないかと。当然コストがかかるので、その兼ね合いもある。</p>
会長	<p>トリップアドバイザーの仕組みがどのくらいあっているのか難しいところだが、学生がSNSを使いこなすのは事実。それをうまく使えたらいい。パブリックコメントは意識の高い人が意見を寄せる。市民全員が意見を寄せるわけではないのが現実。全ての市民に要求するのも無理だ。市民が行政に対して強い関心を持ってもらい、少しでも多くの人に意見を寄せてもらう仕組みをどう作っていくかというのは、この審議会の域を超えている。この審議会でこういう意見が出たということを市の上層部にぜひお伝えいただきたい。</p>
事務局	<p>市民協働課が取りまとめを行っているので、パブコメのあり方について伝えたい。</p>
委員	<p>QRコードをいろいろなところで見られるようにするといいと思う。私もこれを使う。</p>
委員	<p>市民のひろばの1月号はいつ出るのか。</p>
事務局	<p>1月1日から6日の間に出る。</p>
委員	<p>市のホームページを見ないと12月20日から12月末まではわからない。</p>
事務局	<p>用紙そのものなどは、各支所や資源政策課にも置く。来られた方は目にすることができる。</p>

発言者	発言内容
会長	広く市民に公告しなければならない。市の関連施設や協力してくれる所には20日から案内を出してもらう。
委員	銀行や郵便局にはいかないのか。
事務局	いかない。
会長	<p>今後仕組みを考えた方がいい。ここで考える必要はないが、担当部署の方で。アリバイ証明のように使ってはいけない。市民の協力を得ようと思うなら、市民の中にあるアイデアを取り込むように、行政としても考えないといけない。大きな問題なので、関係部署にお伝え願いたい。後ほどお気づきの点などあれば、事務局に直接お伝えいただければありがたい。</p> <p>本日、用意された議事事項は以上であるが、その他に何か無いか。</p> <p>【その他】</p>
委員	<p>ごみ減量について、どのようなところに説明に行くとか場所を考えると、行政側が決める前に聞いてもらいたい。入口は学校だけではない。難しいかもしれないが、コンビニの店員が「分別お願いします」など声掛けするとかがいいかもしれない。決めました、となる前に、こういうところを考えていますということをお願いしてもらいたいと思う。</p>
委員	<p>限定されない方がいいと思う。コンビニの掲示も景色になってしまっていて、注目してみるのはごく一部、自分の興味のあることくらいだ。いろいろな市町村と関わりがあるが、鹿児島市ほどモラルの低いところはない。ごみの置き方にしても間違っていると思う。啓蒙活動など、ありとあらゆる角度から情報発信していくことを続けていくしかない。4・5年前まで家庭ごみの持ち込みが多かった。最近少なくなったと思っていたが、ごみ箱の撤去や店内設置になっている。いろいろなことをして成功してきているのはわかっているが、いろいろな角度から情報発信をする。具体的に粘り強く啓蒙を続けていく。人が変われば進捗も早くなるはず。</p>
会長	モラル、市民意識をいかにして変えていくかがカギ。しつこくやらざるをえない。継続こそ力なり。
委員	店でごみ袋も扱っているが、透明ごみ袋なのは鹿児島市くらいではないか。加盟店も鹿児島市では1か月のごみ代1万円かかっていないくらい

発言者	発言内容
会長	<p>だが、1か月7万円かかっている市町村もある。ごみ袋は商品だ。鹿児島市ほどモラルの低いところはないと言ったが、当たり前と思っている。1枚50円とかになるかもしれないと訴えているが、わかっていない。意識を変えていってもらわないと。我々がどうこうしようということではなく、環境をつくっていくということをここで提言していくのがいいのかもしれない。</p> <p>情報の話になると、どういう風潮・方向で、最終的にはどう市民に情報を伝えていくかという工夫である。情報の中身も重要だが、ルートの問題も考えないといけない。課題が山積している。今日はたくさん貴重な意見をいただいた。</p>
委員	<p>今までの有料化の話の流れで、ただ単に有料化しても鹿児島市の場合、不法投棄などが出てくるのではないかと考えられるので、とりあえず期間を設定して啓発をしようという流れがあった。啓発というのが鹿児島市に課されている課題である。そこでどれだけ啓蒙・啓発できて、鹿児島市民の意識が高まるのかということだ。先ほどの委員の発言は耳が痛いと思って聞いていた。なので、今後私たちがすべきことは啓蒙・啓発、今のこの状況が警告だということを市民に伝えていくことだと思った。</p>
会長	<p>以上でよろしいか。</p> <p>それでは、本日の議事はすべて終了とする。委員の皆さまはご協力ありがとうございました。</p>